

国際水田・水環境工学会（PAWEES）の活動状況

Recent Activities of the International Society of Paddy and Water Environment Engineering

○松野裕*、中村公人**、増本隆夫***

○Yutaka MATSUNO*, Kimihito NAKAMURA**, and Takao MASUMOTO***

1. はじめに 国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES）は、その事務局が現在台湾に置かれているが、来年度以降再び日本が事務局を担当する。本文は、PAWEESの活動状況、特に昨年度韓国で開催された研究集会および国際会議の概要および学会の現状を報告すると共に、事務局が今後取り組んでいくべき活動の方向性について議論するための情報を提供することを目的とする。

2. 背景 PAWEES は、日本、韓国、台湾が中核となりアジアモンスーン地域の農業工学関連の学会と国際機関などが連携して、2003年1月に設立された国際学会である。PAWEESの中心的な活動として、「Paddy and Water Environment (PWE)」をSpringer社から年4回発行している。これは、かんがい排水、土壌保全、水保全、土地・水資源管理、多面的機能、農業政策、地域計画、生物環境システム、生態系の保全や回復など、水田農業における土地、水、環境に関する科学・技術を広く扱う英文学術論文誌である。また、日本、台湾、ならびに韓国において研究集会が過去に6回開催された。農業農村工学会およびその関係者は、PAWEES発足当初から中心的役割を果たしてきており、PAWEESの運営および発展の大きな原動力となっている。

3. 第6回 PAWEES 国際研究集会の概要 2007年10月に韓国ソウル市において、第6回国際PAWEES国際研究集会が行われた。併せて、PAWEES国際賞授賞式および第6回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議が開催された。今回の一連の会議は韓国農業工学会の50周年記念大会の一環として開催されたものである。

研究集会では、「持続可能な地域開発と管理」をテーマにアジアモンスーン地域での様々な研究事例が計13件紹介された（研究事例の詳細は農業農村工学会誌第76巻第1号 p65-68 参照）。

PAWEES国際賞は、わが国からは以下の方々が受賞した：

- 国際賞：戸原義男（九州大学名誉教授）、中野政詩（東京大学名誉教授）、佐藤洋平（東京大学名誉教授）、
- 論文賞（沢田賞）：土原健雄（農村工学研究所研究員）、

*近畿大学農学部 School of Agriculture, Kinki University

**京都大学大学院 Graduate School, Kyoto University

***（独）農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 National Institute for Rural Engineering, National Agriculture and Food Research Organization

キーワード 国際水田・水環境工学、水田農業、PAWEES 活動

- レビューアー賞：八丁正信（近畿大学教授）、森健（九州大学教授）、

また、技術者育成に関する会議では、PAWEES の関連事項として、PWE 誌の SCI 登録状況およびアジア地域の水田農業に関する英文テキストの発行についての議論が交わされた。これら一連の国際会議の結論は「PAWEES SEOUL STATEMENT 2007」としてまとめられている。

4. 今後の展開 2008 年の主な活動として、10 月に台湾において PAWEES 研究集会および国際会議が予定されている。これには、我が国からも多数の参加が見込まれている。

さて、来年度以降、事務局が現在の台湾から日本に戻る事となるが、これで主要 3 カ国での事務局の役割が一回りする事となる。PAWEES 発足から 5 年が経過し、今までの運営上の課題や問題点も関係者間ではある程度は共有されているものと想像する。我が国においては、新たな日本事務局の体制を確立し、将来の発展へ向けての戦略を検討する時期に来ているであろう。農業農村工学会からの、今までのような継続的支援も非常に重要ではあるが、将来、人的・経済的に独立可能な組織となるためには、その具体的な展望が必要と考える。現時点での PAWEES の最懸案事項は、PWE 誌の SCI への登録であるが、これが達成された場合は、国際的な認知度がより一層高まり、活動の場も今まで以上に広がってくるものと想定する。

このような状況下において、PAWEES は今後とも韓国、台湾に加えて他のアジアモンスーン諸国と水田農業に関わる様々な問題を共有し、その技術・知識を発展させていく必要がある。これについては、PAWEES メンバー間での知識・経験の共有、連携、協調をより一層深めて行くことが重要である。数カ国にまたがる共同プロジェクトを立ち上げることも一考であろう。昨年度台湾で行われた、大学院生のための国際研究集会なども教育面からの連携という意味では意義ある活動であった。また、3 カ国が中心となって英文テキストを作成する計画がある。これまで日本では水田農業に関連するいくつかの英文テキストが出版されてきたが、多面的機能や環境問題と関連した内容のものは見られない。欧米諸国の農業とは異なるアジアの水田農業に関する英文テキストを発行することは、水田農業に関する知識の共有、さらに水田農業に国際的に関わっていく人材を育てていくためにも必要であろう。

さらに、モンスーンアジア以外にもその活動の場を広げることも考えていくべきであろう。2008 年 5 月に日本で開催された第 4 回アフリカ開発会議（TICAD）では、日本がアフリカのコメ生産を 10 年で倍増させる方針への支援を表明した。そのために「アフリカ稲作振興イニシアチブ」（CARD）が創設され、国際協力機構（JICA）や、アフリカ開発のための新パートナーシップ、国際稲研究所（IRRI）など計 7 機関が参加し 2008 年 10 月をめどに創設する、とのことであるが、PAWEES もそのような取り組みに積極的に参加していくことが望まれる。また、欧米諸国との連携強化も視野に入れるべきである。上述した、韓国での研究集会の基調講演において、ヨーロッパにおける水田農業の現況と展望についての紹介があった。コメはヨーロッパでの主要作物ではないが、EU の水稲作付面積は 410,000ha あり、農業の経済性や環境の保全のために重要な役割を果たしている。また、EU の水田農業も日本と同様、高い生産コスト、市場の自由化による競争などに直面しているとのことである。これらを踏まえれば、PAWEES がモンスーンアジアの外にも目を向ける意義は大きい。

当該企画セッションにおいては、PAWEES の今後の活動について積極的な議論が望まれる。